

歴史散歩

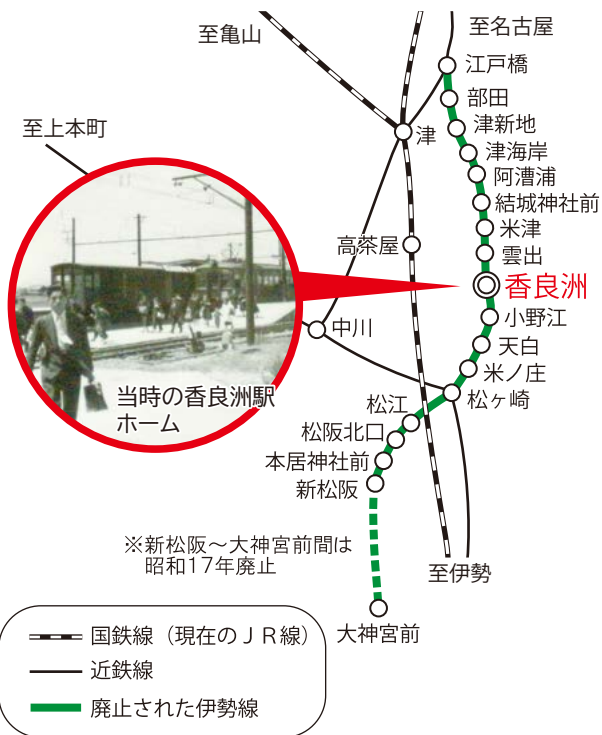


香良洲駅

「近鉄道路」とも呼ばれる市道塔世橋南郊線を南に進むと、雲出島貫町で県道嬉野津線との交差点に至ります。この交差点から120mほど北に、かつて香良洲駅がありました。

香良洲駅の開業は昭和5年4月1日で、当時の伊勢電気鉄道によって、塔世橋の南にあった津新地駅から新松阪駅(松阪市大黒田町)間が開通した際に設置された駅の一つです。伊勢電気鉄道の前身の伊勢鉄道は明治44(1911)年に創業し、大正4(1915)年に一身田駅から白子駅間を開通させたことを皮切りに、それまで鉄道路線がなかった三重県の海岸部沿いに路線を延ばしていきます。大正15年には伊勢電気鉄道に社名を変更し、名古屋と伊勢を鉄道で結ぶことを目

伊勢線の路線図(「香良洲町史」より一部改変)



的に積極的に路線の延伸を進め、津新地駅から四日市駅間を延伸。昭和5年4月に津新地駅から新松阪駅間を延伸し、12月には新松阪駅から大神宮前駅(伊勢市)間を開通させました。

「伊勢電」の名前で親しまれた伊勢電気鉄道ですが、昭和11年には参宮急行電鉄(参急)と合併して参急伊勢線となり、その後も鉄道会社の合併や買収が続く中で、昭和19年に近畿日本鉄道となります。戦時中には香良洲町に三重海軍航空隊(予科練)が置かれており、香良洲駅はその玄関口となりました。

「海水浴はからす浦」のキャッチコピーも使われた香良洲駅ですが、戦後になると自動車の普及などにより伊勢線の乗客は減少を続け、昭和36年1月に合理化のため、路線と各駅は廃止されました。

現在は香良洲駅の跡地には、駅があったことを示す痕跡はありませんが、雲出川を渡るために架けられていた雲出川橋梁の橋脚は、現在も水道橋として利用されています。また、堤防に架けられた橋梁の高さに合わせるため、堤防に向かって盛り土されていた線路跡も見ることができます。

